

## 「通訳を通して見た中国指導者」

( 2 0 0 4 年 5 月 2 1 日。於：札幌国際プラザ )

北海道大学言語文化部

助教授 諏訪一幸

### ・前指導部 ( 1 5 期体制。 1 9 9 7 年 9 月 ~ 2 0 0 2 年 1 1 月 )

#### 1 . 主な指導者

( 1 ) 江沢民 ( 1 9 2 7 年、江蘇省揚州市出身。上海交通大学卒。上海市党委員会書記の後、  
8 9 年 6 月から 0 2 年 1 1 月まで総書記。現在、中央軍事委員会主席 )

饒舌、博学多才 ( 漢詩、外国語 )、パフォーマンス。

日中戦争時の体験 ( 養父の戦死、憲兵からの迫害 ) から、「反日」との評価。

「人間江沢民」に関するエピソード ( 「 3 つの代表」確立への苦悩 )

0 1 年 1 月 9 日 ( 全党公認化はこの年夏 )、土井たか子社民党党首との会談における発言。「 I T 関連知識で富をなした人間は資本家ではない。こうした人物の中に共産党を擁護し、入党したいと考えている者がいたらどうするのか。この問題には自分も十分お答えできない。我々は今、研究過程にあると言えるのみである。更に、このような人々を共産党が受け入れず、民主諸党派が入党を認めるのなら、中国共産党は結局のところ貧乏者しか受け入れないということになってしまう。これで良いのか。共産党は発展できるのか」。

参考：「 3 つの代表」とは「第二の南巡講話」。

「南巡講話」 9 2 年 1 ~ 2 月にかけて、鄧小平が南方各都市で行った一連の談話。「イデオロギーにとらわれることなく、経済活動に励み、豊かになる」ことを奨励。これ以降、中国は高度成長期に入る。鄧小平は「物質的豊かさ」を実現することで、党の正統性を確保することに成功。

「 3 つの代表」 - 0 0 年 2 月、広東省を視察中の江沢民が初めて用いた表現。中国共産党は「広範な大衆の根本的利益」に基づき、「高い生産力」と「豊かな文化的生活」を実現するために努力するとの姿勢を示したもの。その後、この表現は、共産党の指導思想として、党規約 ( 0 2 年 1 1 月 ) 及び憲法 ( 0 4 年 3 月 ) に盛られた。江沢民は、経済発展の原動力である私営企業

主らを入党させ、党「基盤の拡大」を図ることで、正統性維持を期待。

( 2 ) 李鵬 ( 1 9 2 8 年、四川省成都市出身。モスクワ動力学院卒。周恩来夫妻の養子。総理の後、98年3月から03年3月まで全国人民代表大会常務委員会委員長 )

「6・4」の際、戒厳令布告。語り口が「悪者」イメージを助長。

夫人は「ファースト・レディー」。

今は回顧録の執筆に専念。

( 3 ) 朱鎔基 ( 1 9 2 8 年、湖南省長沙市出身。清華大学卒。副総理の後、98年3月から03年3月まで総理 )

職務に対する、分け隔てない厳しさ。

会見時間を大幅に超えて経済談義に花。

( 4 ) 李瑞環 ( 1 9 3 4 年、天津市出身。天津市党委員会書記などの後、93年3月から03年3月まで政治協商会議全国委員会主席 )

大工出身の「庶民派」 - 京劇、卓球を好む。

早い引退 - 「一家言」が災い？

## 2 . 江沢民の時代：内政・外交で着実な成果

年平均10%近い経済成長率。昨年、一人当たりのGDPが千ドル突破。

動乱や混乱のない、比較的安定した社会情勢。

国際的地位向上。

「米国一極支配」に対抗する新たな国際秩序確立に向けた長期戦略。

大国外交、多国間協議の場への積極的関与。

## ・現指導部 ( 1 6 期体制。2002年11月から約5年間 )

### 1 . 主な指導者

( 1 ) 胡錦濤 ( 1 9 4 2 年、安徽省績溪县出身。清華大学卒。チベット自治区党委員会書記、国家副主席の後、02年11月から総書記、03年3月から国家主席 )

地味、そつがない。

( 2 ) 呉邦国 ( 1 9 4 1 年、安徽省肥东县出身。清華大学卒。上海市党委員会書記、副総理の後、02年11月から全国人民代表大会常務委員会委員長 )

早口、朗らか。

経済、とりわけ工業に明るく、数字のオンパレード。

( 3 ) 温家宝 ( 1 9 4 2 年、天津市出身。北京地質学院卒。党中央弁公庁主任、副総理の後、

02年11月から総理)

気配り、真面目。

「6・4」の修羅場を生き延びたしたたかさ。

(4) 曾慶紅(1939年、江西省吉安市出身。北京工業学院卒。党中央弁公庁主任、中央組織部長の後、03年3月より国家副主席)

江沢民の「懐刀」- それを裏付ける自信あふれた動作や表情。

対日外交最高責任者?

(5) 唐家璇(1938年、江蘇省鎮江市出身。北京大学卒。駐日大使館公使、外交部長の後、03年3月より外交担当の国務委員)

好物はラーメンとトロ。

江沢民の引きがあったため(?)、駐日大使になることなく出世。

「知日派」ゆえの「対日強硬論」。

## 2. 胡・温体制への期待と限界

(1) 期待(とりわけ、対日関係改善に対する期待)

江沢民や朱鎔基と異なるソフトな、実務的な「イメージ」。

内政(鄧小平・江沢民時代の「負の遺産」- 最大の問題は所得格差の拡大- 清算へ)

第16回党大会政治報告では「発展第一」が示されたが、その後、「協調ある発展」や「持続的発展」を同様に強調する方向へ微調整。

弱者救済の思いやり(「親民」)政策。

- ・「3つの代表とは結局のところ人民大衆の利益を守ること」(03年1月)との発言は、「3つの代表」の新解釈、新指導部の目指す大衆路線宣言。
- ・SARSで陣頭指揮、AIDS患者と握手。
- ・「三農」(農村、農業、農民)問題への取り組み。04年「党中央一号文件」は農民の収入増加に関する内容。
- ・外交儀礼簡素化、指導者個人関連報道の減少、昨夏「北戴河会議」の取りやめ(幹部の特権・腐敗に対する民衆からの批判を意識)。

## 外交

積極的な全面外交。とりわけ、アジアの周辺国や途上国との関係強化へ。

- ・昨年6月、インド首相が10年振りに訪中。
- ・2回の六者協議主宰(北朝鮮の扱いが中国にとって最大の頭痛の種)。
- ・大国外交は継続(拡大EC誕生にあわせた、温家宝総理の訪欧)。

対日「新思考」の提起。

- ・馬立誠(人民日報主任編集員)「対日関係に関する新たな考え方」(『戦略と管理』02年第6期)。「対日友好論」(軍国主義復活の可能性なし、中国に対する日本

の謝罪の歴史は終わった）。

- ・時殷宏（中国人民大学教授）「中日接近と“外交革命”」（同03年第2期）。「対日重視論」（対米戦略を優位に進め、台湾統一を実現するという、国益への奉仕を第一に置く）。

（2）限界：江沢民時代と完全に一線を画するのは非現実的（党大会における指導者交代は初めて。進む制度化）

共産党政権の維持・強化は絶対的命題（指導部の意図とは別問題）

憲法修正に際する指示の第一は「党指導の強化」。「自由化」や「民主化」への期待は非現実的（言論統制。実施前から結論が明らかな差額選挙）。

最大の課題は内政の安定（指導部の意図するところ）

容易ではない弱者・農民救済。政権の足元をすくいかねない「親民」政策（客観的不安定要因。「慎重な対応、必要な結果」）。

未だ「核心」となりえない脆弱な権力基盤（未だ不十分な「胡・温カラー」）

鄧小平（或いは江沢民）は「第二世代（或いは第三世代）指導部の核心」だが、胡錦濤は「総書記」止まり（「第四世代指導部の核心」がメルクマール）。

事例に基づく検証

対日「新思考」 政権のお墨付きなし。支持基盤弱く（馬論文）、特段の新味なし（時論文）。「重要な中日関係」における「重要」の持つ意味（「重視」論は単純な「友好強化」論ではない。経済発展にとって「重要」、対米外交を進める上で「重要」）。対台湾政策 「ソフトさ」は手詰まり状況の反映（「統一」実現のための有効策としては、米・日などの「大国」を通じた圧力（しかし、台湾問題は国際化）、経済的一体化推進程度。3月の総統選挙に際しては、連戦・宋楚瑜連合の勝利を予想。実質的には「一辺一国」論に変化がない「対中強硬」姿勢と「対中配慮」を併記した陳水扁就任演説に対する中国側が打つ次の手は？）。

以上